



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

退職者連合2・16院内集会 財源不足の押し付けを許さない 高齢者の怒りが参議院会館内に響く

退職者連合は、参議院議員会館で第193通常国会の予算審議に合わせ「政策・制度要求実現2・16院内集会」を開催した。「医療・介護サービス」の低下、負担増にストップをかけよう！のスローガンのもと、約300人が参加した。連合と民進党、社民党から連帯の挨拶を受け、集会終了後、政府と各政党への要請行動を実施した。

会場は定刻の10時には席に隙間がないほど参加者で埋まった。JAMシニアからは大山会長はじめ本部と地方代表が参加した。

退職者連合の阿部保吉会長は、主催者挨拶で、国会での医療と介護をめぐる政府の姿勢について言及し「財源不足を患者への負担増や介護の利用者負担に求めるべきではない。実行されれば影響は高齢者に集中する」と釘を刺した。また、政策制度の方針を提案した菅井義夫事務局長も財務省の財政制度等審議会が提示する社会保障の「改革工程表」による医療・介護制度改革の方向は、高齢者への負担増と給付の削減であり、「財源不足を患者へ押し付けるだけに



他ならない」として、具体的な数字を示しながら政府案を厳しく批判した。その上で菅井事務局長は、あらためて医療と介護を柱とする退職者連合の要求実現に向けた取り組みへの強い決意を表明した。

来賓挨拶では、新谷信幸・連合副事務局長と野田佳彦・民進党幹事長、福島みずほ・社民党副党首が登壇し、「要求の実現に向けてともに奮闘していく」との強い決意を述べた。その後、JAMシニア幹事会でも報告した連合の伊藤彰久生活福祉局長が、医療と介護等に関する国会の動きについて資料をもとに報告した。

日本海に浮かぶ竹島は、島根県隠岐郡から北西に約175キロに位置し、東京ドームの約5倍の広さがある。竹島は1905年明治政府によって日本領土に編入し島根県に組み入れられた。また、1952年4月、第2次世界大戦の戦後処理で新たに発効したサンフランシスコ講和条約でも日本領土とした。にもかかわらず韓国は同年に「李承晩ライン」を設置したことから争いの海と化した。以後、日韓基本条約

（戦後保障問題）締結までの13年間に、日本漁船の拿捕は328隻、死傷者数44人、いだ。

このような状況を克服したいと1980年代に入り、旧全日本労働総同盟・島根県同盟と旧民社党島根県を中心に、竹島返還要求運動を街頭活動としてスタートさせ、後に連合島根の活動に繋

一方、島根県議会も国への要望を続けてきたが進展もなく、このままでは竹島問題は風化するとの懸念から国民の世論啓発を求め、2005年2月議会

で、2月22日を「竹島の日」と定める条例を制定した。条例制定に反発した韓国は、島根県と姉妹提携を結んでいた慶尚北道が一方的に関係を破棄。また、韓国大統領の竹島上陸、竹島の観光地化など新たな行動を強めている。

「竹島の日」に寄せ かえれ、島と海

山陰シニアクラブ会長 内田 敬

主張



領土問題の解決は、政府間の交渉に委ねるしかないが、国を動かした後押しをする国民意識の啓発を待望してやまない。

集会の最後に「日本の要求実現集会を機に中央・地方の連帯を強め、要求実現に向けて総力を挙げて闘いぬく」とのアピールを採択し散会した。

社会保障に関する2017年春の要求

第193通常国会予算審議における本格的な論戦が始まった。退職者連合の医療制度に関する今国会への要求は次の通り。今後の進展に注目しよう。

①高額療養費制度の高齢者負担上限額引き上げを撤回すること。

世代間・世代内の負担の公平性や負担能力に応じた負担等の観点から、低所得者以外の70歳以上高額療養費の負担上限を若年者なみに引き上げるとしている。このことは加齢に伴い受診機会が増し、負担する医療費が急増する実態を無視しており、実施すれば高齢者の受診機会を失わせることに繋がる。与党調整等を通じて当初案より一定程度緩和されてはいるが、近い将来の再引き上げも危惧される負担上限額引き上げには反対する。

②後期高齢者医療制度の保険料軽減特例の段階的解消を撤回し、後期高齢者医療制度に代わる新制度を作ること。

後期高齢者医療制度の保険料軽減特例を段階的に解消するとしているが、軽減特例は制度発足への反対を逸らすために、制度の整合性・負担の平等性を無視して設定した姑

息な特例である。後期高齢者医療制度そのものを廃止し、高齢者医療改革会議のとりまとめに基づきこれに代わる新制度を作るべきである。

③後期高齢者医療制度の窓口負担を原則2割に引き上げることに、負担率算定にあたって資産勘案を付加することに反対する。

今後の関連審議会まとめでは言及されていないが、「集中改革期間中」に後期高齢者医療制度の窓口負担原則2割への引き上げと、負担率算定に資産勘案を付加する方向が示されている。若い時に比べて医療費が急増する高齢者の実態を無視する負担率の引き上げに反対する。また、マイナンバーを用いて預貯金等を把握して負担を求めることに反対する。

④65歳以上の医療療養病床に入院する患者の居住費について光熱水費相当額の負担を求め、ことに反対する。

介護保険施設や在宅との負担の公平性を図るとしているが、医療と介護の相違を無視して機械的に負担を揃えることは医療保険給付の性格を変え、際限なき負担拡大につながるものとして反対する。

退職者連合 人生100年老いを支えるしくみ

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事長の樋口恵子氏



3月7日、退職者連合は連合会館で男女平等参画推進のための学習会を構成組織、地方退職者連合より150人を集めて開催した。JAMからは大山会長・大野・末友が参加した。学習会では、「NPO法人高齢社会をよくする女性の会」理事長の樋口恵子さんが「人生100年老いを支えるしくみ」と題して講演。講演に先立ち、男女平等参画委員会の人見一夫委員長と連合本部の井上男女平等総合局長より現退一致の連携を訴える挨拶があった。講演では、少子化の影響で「伝統的な「家」

迎える大介護時代に向けて社会的に老いを支える仕組みづくりが必要」との指摘があった。介護される方もする方も女性の比率が高く、介護・医療サービス削減は二重に女性を直撃しているなど「超高齢化社会の主役は女性であり、単身社会の主役も女性」「高齢化社

葉 楽しく、仲良く、元氣よく

千 新しい年を元気にスタート

蝦名 秀信通信員

JAM千葉シニアクラブの「新春の集い」は1月14日14時から千葉市中央区の「中華料理店・永興」で総勢47人が参加して開催した。この日は日本列島に今年最強の寒波がきて千葉市内も雪がぱらつくとも寒い日でしたが、参加予定者48人中のほぼ全員が元気に参加した。畑山会長の挨拶から始まり来賓祝辞、懇親会へ。懇親会では88歳の元気な会員2人と隣合わせに、老老介



迎える大介護時代に向けて社会的に老いを支える仕組みづくりが必要」との指摘があった。介護される方もする方も女性の比率が高く、介護・医療サービス削減は二重に女性を直撃しているなど「超高齢化社会の主役は女性であり、単身社会の主役も女性」「高齢化社

クラブの議案書を見直すと2017年度の課題に「安心して暮らせる社会や仕組みを自らの政策として取り組むことが必要不可欠です」と書かれていた。

JAM千葉シニアクラブは「楽しく、仲良く、元氣よく」の畑山会長の言葉を噛みしめながらの新年のスタートとなった。

来賓のシニアクラブ 大山会長、東京シニア古家会長、千葉退職者連合石田会長、東京千葉西巻副書記長、東京千葉総武地協有田議長、東京千葉房総地協佐藤議長、中央労金千葉支店宮内次長大変ありがとうございました。